

# あいち農産物生産流通レポート

平成20年11月号

情報サロン		
・北の大地で愛知産農産物を紹介 ～やさい・くだもの消費拡大フェア～ (東京事務所)	-----	1
地域トピックス		
・平成20年度愛知県茶業振興大会を豊橋市で開催 (東三河農林水産事務所)	-----	2
東日本情報		
・量販と連携した新たな産地戦略 (東京事務所)	-----	3
西日本情報		
・愛知県花き温室園芸組合連合会50周年記念振興大会 が開催されました (園芸農産課)	-----	5
フラワーページ		
・お花屋さんでも多様化する流通事情と商い (名古屋生花小売商業協同組合 板倉正直)	-----	6
青果		
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	-----	7
・名古屋・東京市場における青果物の11月の見通し	-----	8
花き		
・切花・鉢花の11月の見通し(県内市場)	-----	14
輸出入		
・主要農産物の輸出入実績(2008年8月)	-----	18
関連指数	-----	19

内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所行政課農産物流通対策グループ

(03)-5492-5400

愛知県農林水産部食育推進課

(052)-954-6417

## 北の大地で愛知産農産物を紹介

～ やさい・くだもの消費拡大フェア～

10月2日、札幌市内の札幌パークホテルにて「第27回やさい・くだもの消費拡大フェア」(主催：札幌市中央卸売市場青果部運営協議会\*、後援：北海道、札幌市)が開催されました。

会場を訪れたのは、主催協議会加盟店の顧客や札幌市内の幼稚園、小学校の父兄から応募した1万人の中より選ばれた800名で、報道関係などその他招待者を加え、約1,200名が来場しました。会場内で栄養学のミニセミナーを開催するとともに各コーナーへ食育アドバイザーを配置し、青果物の旬やその食べ方、調理方法について消費者へ提案するなど、食育を重視した内容でした。



愛知県ブースにて食べ方の説明をする食育アドバイザー

今回、愛知県としては全国一の「いちじく」、「おおば」を提供しました。「いちじく」の4分の1にカットしたものの試食、「おおば」は産地で調理したおおばジュースの試飲を行いました。同時に食べ方や調理方法を記したリーフレットの配布や愛知県特産青果物の紹介を行い、来場者へその理解を深めてもらいました。

なかでも札幌ではあまり出回らない「いちじく」に注目が集まりました。いちじくは、札幌ではデパートでしか販売されないため、「初めて食べたが非常に美味しい」、「美味しいことは知っているが高くて買えない」、などの意見がありました。

また、おおばジュースは、「すっきりしていて飲みやすい」、「赤じそジュースは知っているが、おおばのものは初めて飲んだ。美味しい」などの意見があり、家庭で試してみたいとレシピを持ち帰る招待客が多数いました。

こうしたフェアは消費者へ愛知産農産物をPRする良い機会でした。

\* 卸、仲卸、小売など7団体で構成される

東三河農林水産事務所

平成20年度愛知県茶業振興大会を豊橋市で開催

平成20年10月19日(日)、愛知県、豊橋市、愛知県茶業連合会の共催により、東三河農林水産事務所で「平成20年度愛知県茶業振興大会」が、約200名出席のもと盛大に開催されました。

この大会は、愛知県内において、茶の生産・販売に携わる茶業関係者、関係機関が協力し、茶生産の振興と需要の増進を図り、本県茶業の発展に寄与することを目的に毎年実施されています。第1回は昭和25年で、大変歴史のある大会です。

大会では、県下7茶業組合から250点が出品され農林水産大臣賞、愛知県知事賞などが授与されました。

展示コーナーには、各授与製品ほか、煎茶、深蒸煎茶、かぶせ茶、てん茶が展示され、参加者は、見事な出来映えと芳醇な香りに足をとめ、見入っていました。



平成20年度愛知県茶業振興大会

今年のお茶は春先の天候に恵まれ大変良品に仕上がったそうです。

また、大会会場に隣接する豊橋公園内で開催されていた豊橋まつり会場においては、汗ばむほどの快晴のなかで、茶の販売とふるまい茶を多くの市民が満喫しました。

このほか、東三河農林水産事務所の敷地では、県内外12社による茶資機材展示会も催されました。

次回開催は、新城市で予定されています。

主な受賞者

農林水産大臣賞	豊橋八葉会	岡本広敏	愛知県知事賞	前田新一郎
東海農政局長賞	小林智鶴		愛知県知事賞	藪押通之
愛知県知事賞	豊橋八葉会	林栄三		



展示コーナー



豊橋まつり会場でのふるまい茶

## 量販と連携した新たな産地戦略

東京に駐在する道府県の農業関係職員で構成する在京流通連絡会で、農業生産法人「セブンファーム富里」の設立について、JA 富里市の常務取締役 仲野隆三氏を招いた講演会が開催されました。同農業生産法人はイトーヨーカ堂（以下ヨーカ堂）JA 富里市（千葉県）農家の共同出資によるもので、氏は設立に大きく関わっており、そのいきさつや今後の青果物流通についての話を伺いましたので紹介します。

### 1 富里市の農業について

富里市は成田市のおすぐ南、東京から50km圏内に位置している。農地のほとんどは畑作地で、約2,000haの農地に980戸の農家が点在、1戸あたりの経営面積は平均2ha。明治になってからの開拓地であるため、1戸ごとの農地は比較的まとまっている。専業農家率は40%と千葉県内ではトップクラスではあるが、近年高齢化が進んでおり、後継者の確保が課題となっている。作物はすいか、だいこん、にんじん、ねぎなどが中心である。

### 2 JA 富里市の概要

同JAの農産物販売額は68億円で、うち直販は26億円と直販比率が高い（平成19年度）。直販の販売先は、企業取引、量販店、商社等で、契約先は50社以上に及び、市場委託販売は40社と細分化している。

イオン、ヨーカ堂、西友など大手量販店と直販やインショップに取り組み戦略的に販売している。このような多岐にわたる取引先に合わせた荷姿に対応するため、パッケージセンターを全国に先駆けて設置し、管内の農産物だけではなく、他県産地の農産物までパッキングを行っている（愛知県産も一部お世話になっている）。

### 3 流通の変化に対応した取組

バブル崩壊以降、市場では相対取引が主流となり、量販店への価格決定権の移行や売れ筋等級の中抜きなどにより、販売価格が低迷した。その後、加工卸との連携強化を図ったが、輸入野菜の増加により契約価格が低迷した。このような状況下、現在次のような多岐にわたる戦略に取り組んでいる。

JA独自の販売戦略（提案型販売）に基づいた量販店との提携強化  
組合員の提案による、営農形態に合わせた加工メーカーとの提携  
直販における量販店ニーズに合わせた取引の拡大  
多様な販路開拓によるブランドになっていない品目の有利販売  
セブン・アイホールディングスのような中・外食（セブン・イレブン・デニーズ）、量販（ヨーカ堂）等の多様な形態を有した取引

#### 4 農業生産法人「セブンファーム」の設立について

##### (1) 設立経緯

JA 富里市とヨーカ堂との取引は平成 11 年頃から始まった。直販取引が増加する中、ヨーカ堂側から農業への参入が打診された。ヨーカ堂との関係強化のため JA が組合員を紹介した。

##### (2) 設立にあたっての JA の考え方

- ・組合員及び家族の意思を尊重する
- ・JA は組合員の相談役として全面支援
- ・JA も共同出資
- ・JA 事業（金融、販売、購買、営農指導）の利用
- ・ヨーカ堂グループとの取引拡大
- ・担い手の確保
- ・食品残さ利用による資源循環型農業の推進



JA富里市 仲野常務

#### 5 「セブンファーム」の概要

設立年月 平成 20 年 8 月

資本金 300 万円（出資比率：JA 10%、ヨーカ堂 10%、組合員 80%）

農場の面積 4 ha

構成員 農業者 4 名（2 世帯）、ヨーカ堂職員 2 名 合計 6 名

セブンファームの特徴

- ・ヨーカ堂グループからでる食品残さを堆肥化し利用
- ・農機・施設 組合員からのリース

法人設立後の動き

栽培品目をだいこん、ほうれんそう、小松菜など 5 品目に限定し 8 月に播種。10 月下旬からだいこんを 6 店舗で販売した。

#### 6 初出荷を行って思ったこと

セブンファームで減農薬栽培に取り組んだため、だいこんにキスジノミハムシの食害が多発し大半が規格外品となってしまった。しかし、都内のヨーカ堂グループの格安店で、農家希望手取りの最低価格をもとに販売価格を決定し、害虫被害を受けただいこんをポップで商品説明した結果、店舗の一日分の販売量に相当する量を 30 分で完売した。この事例をとおして「虫食い野菜」でも提案次第で売れる現実を改めて思い知らされた。

また、ヨーカ堂側と野菜栽培の大変さを共有し、販売努力を引き出せた、ヨーカ堂が集めた都会からの小学生を招き、食育活動を一緒に展開することができた、循環型農業に取り組むことができた、などの良い点が沢山あった。

#### まとめ

このような法人の設立により、小売と生産を結び付け、有利販売を目指すことは、農家手取りの向上ひいては担い手育成に繋がると考えられる。しかし、氏の声が同法人の話になると声が小さくなったことやセブンファームで使用する食品残さ由来の堆肥は 1 t しかないことからするとパフォーマンスの部分が大きく、ヨーカ堂の広告塔ではないかと疑心暗鬼になってしまうのは私だけであろうか。

## 愛知県花き温室園芸組合連合会50周年記念振興大会が開催されました

愛知県花き温室園芸組合連合会(以下「花き連」)は、昭和34年(1959)に発足し、今年設立50周年を迎えることから、平成20年10月24日(金)、ライフポートとよはしにおいて、「愛知県花き温室園芸組合連合会50周年記念振興大会」を開催しました。

当日は、小雨であいにくの天気にもかかわらず、約900名もの花き生産者ほか関係者が出席し、大会を盛り上げました。

式典は、これまでの花き連の歴史50年を振り返るスライド上映からはじまり、続いて愛知の花の生産を支えてきた功労者の方々の表彰が行われました。次に、40周年の大会決議報告を行い、今後も日本一の花き産地として、愛知の花の100年を目指すことを大会決議として誓いました。さらに、この大会決議を受けて、今後の花き連の方針を実現するため、若手生産者の皿井さんご夫妻(田原市)が、大会宣言を読み上げました。その後、講師の一龍齋貞花さんが「戦国武将に学ぶ生き残りの戦略」と題して、現在の厳しい状況下での考え方や生きるヒントについて講演されました。

## 【式典内容】

(1)50周年のあゆみ ~スライド上映~

(2)功労者表彰

- ・知事表彰 11名
- ・会長表彰 30名
- ・会長感謝状 9名

(3)大会宣言決議

(4)記念講演

「戦国武将に学ぶ生き残りの戦略」

講師 いちりゅうさいていか 一龍齋貞花氏

(日本演芸家連合会理事長)

(5)ロビー展示

- ・愛知県花き温室園芸組合連合会会員のオリジナル品種展示
- ・愛知県農業総合試験場の研究発表
- ・愛知県の花の歴史パネル展示
- ・花に込めたメッセージ優秀作品パネル展示 等



知事表彰(授与者:稲垣副知事)



ロビー展示

## お花屋さんでも多様化する流通事情と商い

花屋の仕入れは、朝が早い。しかし、それ以上に早いのは、卸の方々。まだ、日も昇らないうちから開いているお店もある。このような光景が何十年も続いてきた。これからも無くならないであろう。でも、ここ数年でお花の流通に劇的变化が起こっている。夜明け前、市場に行かなくても朝には店頭にお花が届いてしまう。市場前日の夕方に、欲しいお花をパソコンの前で注文して、確実にいるものがなければ市場にはいかない。これが私のお店のやり方である。

いまや、商品を実際に見て買うということすら無くなりつつある。良い商品か否かは箱を開けなければわからない。これは悪い面である。しかし、ある一方では、生産者を信頼しているからできる面もある。市場でセリをしても、良い物にある程度、値をつけなければ生産者の方々には割が合わない。でも、やはり買うなら安い方が良い。これでは、市場に良い物は出てこない。いわゆる悪循環である。こんなやり取りは、よくある話だと思うが需要がないのである。相場に見合ったものが出ているインターネット取引の方が無難という考えもある。

流通経路は多様化した。その中で、どれだけ上手に仕入れるか・・・。今、お花の需要は減っていると思う。商いをする事自体が小さな町の小さなお店では大変である。生き残る為に何が必要かを考え、どのようにして売るか。全国のお花屋さんがやっているであろうことをやり、学んでいる。

物日といわれる日がある。例えば、母の日。母の日と言えばカーネーションがよく使われる。毎月、物日にあたるものはある。お正月からクリスマスまで、イベントとして打つには事困らないのが花屋である。使われるお花も大体決まっている。しかし、消費者が求めるものだけを置くことができないのも、また花屋である。だから、ロスも多分にある。いかに売るかよりも、いかにロスをなくすかを考えてしまう事の方が多い。

お店で「季節のお花を入れて下さい。」とよく言われる。季節の花は頭の中をめぐると、実際に店頭のお花を見るとその時期のお花というものが少ない。そう、店頭には季節感がなくなった花が実に多い。または、季節を先取りしているものが多い。これでは、需要に対応した生産ではないと少なからず思う。海外からの輸入物も影響しているのであろうが、日本の四季・季節感が失われかけているのは残念である。

良いお花を生産して出荷していただき、それを商品にしてお届けする。どこのお店でもするでしょうが、最終的に手にするだろう消費者が綺麗で喜んで頂ければ流通がどうであれ、お花屋さんはそのお花の流通経路の一端にすぎないと考えます。

どのような流通形態であっても、商品は、最後には手から手につながるのですから・・・

# 愛知産青果物の動向

青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか : ± 2 % 台以内  
 や や : ± 3 ~ 5 % 台  
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台  
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

## 名古屋市中央卸売市場（品目：ぎんなん）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産	うち愛知産	
19年実績	52	50 (97%)	700	697 岐阜 (1%) 高知 (1%)
20年見通し	52	51	600	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等	
<p>稲沢市を中心に入荷。新芽の時期に好天が続いたことに加え、台風等による落果被害がないことから、着果が多い。その影響により全般的に小玉傾向。ひきあいの強い3Lサイズは少なめで、M~2Lサイズの入荷が多い。                      入荷量は前年並みで、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>			<p>晩生品種の藤久郎は、粒が大きく、また日持ちがすることから人気が高い。                      調理方法としては焼いたり、茶碗蒸し、土瓶蒸しが中心となるが、消費を拡大するには加工向けもさらに工夫をし、用途を広げることも必要ではないか。</p>	

## 東京都中央卸売市場（品目：カリフラワー）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産	うち愛知産	
19年実績	407	18 (5%)	190	194 新潟 (28%) 茨城 (20%) 東京 (13%)
20年見通し	390	-	200	-
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等	
<p>新潟はピーク、長野は終盤で、茨城、埼玉など関東産の入荷が増えてくる。                      各産地とも作付面積が減少傾向のなか、茨城はレタスやはくさいからの転作があり栽培面積が微増の見込み。                      入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>			<p>ブロッコリーの消費拡大の影響もあり、作付面積の減少傾向が続いている。                      愛知産は品質も良く評価されているが、日々のぶれを無くした安定出荷が望まれる。今後は温野菜メニューによる業務需要も見込まれるので、ロットを確保し安定出荷をお願いしたい。</p>	



# 関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数				
		愛知県 平成17年 = 100				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
全 国	18年平均	100.3	105.8	104.0	100.8	102.2
	19年平均	100.3	103.1	109.3	102.7	103.1
	20年 6月	102.2	104.6	110.8	107.2	104.8
	7月	102.4	101.9	102.9	107.7	105.6
	8月	102.7	97.8	110.5	107.9	108.7
愛 知 県	18年平均	100.2	103.9	102.5	99.8	103.9
	19年平均	100.5	100.3	111.1	100.7	103.5
	20年 6月	101.8	101.2	105.2	104.1	102.7
	7月	102.2	99.6	104.4	104.9	103.1
	8月	102.8	97.3	112.7	107.9	105.5

項目 年月		農業物価指数 (平成17年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
全 国	18年平均	102.9	97.8	108.2	120.6	99.0
	19年平均	97.6	95.0	100.6	110.1	99.5
	20年 5月	94.9	92.9	101.2	82.8	102.8
	6月	94.8	92.9	108.0	103.9	102.7
	7月	94.8	93.3	97.8	126.3	103.7
8月	91.9	93.4	82.7	109.5	104.3	

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・総務省統計局「消費者物価指数月報」  
愛知県・愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち米 (単一産、 「コヒカリ」以外)	キャベツ	はくさい	ねぎ	レタス	ばれいしょ	だいこん	にんじん	たまねぎ	きゅうり	トマト	生しいたけ	りんご(ふじ)
	5 kg	1 kg										100g	1kg
17年平均	2,293	170	165	586	397	304	151	340	217	522	636	178	521
18年平均	2,256	174	184	606	426	278	161	359	217	538	630	193	502
19年平均	2,229	147	153	589	440	269	137	295	203	530	629	206	535
20年 6月	2,248	152	172	656	370	293	149	378	178	427	519	212	561
7月	2,223	157	199	631	279	312	133	431	189	432	523	197	588
8月	2,173	130	173	657	329	278	145	359	186	455	483	213	-
品目 単位 年月	みかん	グレフ イル ブ イツ	オレ ンジ	いちご	バナ ナ	キ ウフ イル イツ	緑(せ 茶ん 茶)	カ ー ネシ ョ ン	き く	パ ラ	豚(口 肉  ス)	牛(口 肉  ス)	ま ぐ ろ
	1 kg	100g	1 kg	100g	1 kg	100g	1 本	100g					
17年平均	548	291	362	156	240	723	618	155	171	306	234	792	480
18年平均	546	354	404	153	245	686	609	159	168	312	233	793	497
19年平均	689	356	509	165	258	705	602	163	170	315	221	776	506
20年 6月	-	341	371	-	248	682	620	150	159	324	222	844	481
7月	-	319	390	-	247	649	606	156	156	326	239	832	473
8月	-	302	379	-	256	700	619	166	199	311	236	851	503

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」



あいち農産物生産流通レポート 425  
平成20年11月発行  
農林水産部食育推進課  
〒460-8501  
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
電話 (052) 954-6417